

大学評価学会通信

目次

◆ 第16回全国大会報告	1
◆ 第16回年次総会報告	4
◆ 総会参考資料	6
◆ 大学評価学会規約の改正について	10
◆ 理事会報告	11
◆ 年報第16号投稿・田中昌人賞推薦	12
◆ 第57回研究会について	13
◆ 第17回大会について	15

第16回全国大会報告

第16回大会を終えて

日永龍彦 (共同代表理事・第16回大会実行委員)

2019年3月3日に神戸大学・鶴甲キャンパスで行われた第16回全国大会は、「教育と研究の現場から考える大学のグランドデザイン」をテーマに60名あまりの参加を得て無事終了いたしました。自由研究発表、ポスター発表、課題研究にご登壇して下さった皆様、大会にご参加下さった皆様、会場のご準備をして下さった朴木佳緒留大会実行委員長はじめとする神戸大学側実行委員の皆様のご協力とご尽力に心から感謝申し上げます。

今回の大会テーマにはサブ・テーマとして、「もう一つの『大学評価』宣言」に立ち戻って」を掲げました。2018年11月に中央教育審議会は「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」を公表しました。そこには認証評価の充実策も示されていましたが、私には、その充実策の内容が、評価を「強制を伴いながら個別大学を誘導する」道具へと変質させかねないと思えてなりません。大学評価学会が大学評価のことをあまり語っていないと言われてしまう状況を転換し、学会発足時の基本姿勢である「大学評価のオルタナティブ」を提起する学会を改めて目指したい、そのためには、今後の大学評価の基礎となる「大学のありよう」を、大学を構成する当事者である学生、教職員が主体的に考える機会にしたいという思いも込めたテーマでした。

今大会は、会場校のご都合もあり、通常2日間の大会を1日で行うことになりました。前日にプレ企画と情報交換会を済ませて大会に臨むということになりましたので、開会行事を実施したり、大会の最後に会員総会を行ったりと、通常とは大きく異なるスケジュールとなりました。

そのような中でも、自由研究報告については、「大学教育・青年期教育と支援」「学校・大学評価とマネジメント」「これからの大学のあり方」の3会場にわかれて合計13件の口頭発表が行なわれ、ポスターセッションでは10件の発表が行われました。ポスターセッションもコア・タイムを初めて設け、発表者との直接的な対話が可能になりました。午後の課題研究報告については、「教職協働」と「発達保障」の2つのテーマで研究報告が行われましたが、どちらも重要なテーマでもあり、次回大会では、できればパラレル・セッションにしないようなプ

プログラムにできればと思いました。

会員総会の詳細は本通信の後掲記事に譲りますが、2018会計年度活動総括及び決算（案）、2019会計年度活動方針及び予算（案）など定例の議事のほか、理事会運営のあり方を見直す学会規約の改正を行いました。また、第17回全国大会実行委員会も設置され、早速活動を開始しています。次回は通常のスケジュール通り2日間の大会になるものと思いますが、「大学評価のオルタナティブ」を提起する学会として存在意義を高めるような大会になるものと期待したいと思えます。

なお、本大会の全般的な報告については、大学評価学会年報『現代社会と大学評価』第15号（発売：晃洋書房、2019年7月刊行予定）に掲載されますので、合わせてご覧いただきたいと思えます。

大会プレ企画の御礼と報告

渡部 昭男（神戸大学）

神戸大学では参加費徴収の場合は会場費が有料になることから、経費節減のために、3月2日（土）を無料の大会プレ企画としました。概要は以下の様でした。

○午前：顧問を囲む会（参加者約25名）山本・朴木・蔵原・重本顧問

中教審答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（20181126）について

○午後：公開企画（当日の報告等は神戸大学学術成果リポジトリKernelにアップ済み）

1：「様々な困難をかかえた大学生への授業づくり」（約40名）

チラシ：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005693

國本真吾：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005694

瀧本知加：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005695

瀧本美子①：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005696

瀧本美子②：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005697

2：「研究・生活とともにある大学評価 ―研究者の『多様な育ち』を支える大学のあり方を探る」（約20名）

チラシ：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005670

西垣順子：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005671

安里知陽：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005672

小池由美子：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005673

山口真紀：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005674

森保純子：http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/90005675

夕方の情報交換会は、事前把握では20余名でしたが当日37名の参加がありました。稔りの多いプレ企画及び情報交換会となりました。御礼を申し上げます。

なお、下の写真は、シンボルでもある正門の「発達科学部」碑、大変著名なB棟壁画「ROBIN」です。ウェブ検索してみてください。



大会概要

2019年3月2日 プレ企画

<午前>

学会顧問を囲む会…山本健慈顧問、朴木佳緒留顧問、蔵原清人顧問、重本直利顧問

<午後>

公開企画1 「様々な困難をかかえた大学生への授業づくり」

企画趣旨：赤木和重（神戸大学）

司会：金丸彰寿（神戸大学大学院）

話題提供：國本真吾（鳥取短期大学）「地方私立短大における学生理解を土台にした授業づくり」

瀧本知加（東海大学）「理系学会の教職課程におけるインクルーシブな集団作りを目指した授業の展開」

学生当事者「自分を知り、自分を伝え、共に授業をつくる：発達に障がいのある大学生のわたしが授業理解のために取り組んだこと」

指定討論：瀧本美子（龍谷大学）

公開企画2：「研究・生活とともにある大学評価—研究者の『多様な育ち』を支える大学のあり方を探る」

企画：西垣順子（大阪市立大学）・川地亜弥子（神戸大学）・山口真紀（神戸学院大学）

司会・趣旨説明：西垣順子

話題提供：安里知陽（神戸大学大学院）「研究を通じた成人女性の発達」

小池由美子（埼玉県立川口北高校）「アイデンティティ形成と教育学研究—女性の自立と人間らしく生きること—」

山口真紀（神戸学院大学）「『女性研究者支援』の射程—支援による分断をうまないために—」

指定討論：光本滋（北海道大学）

※公開企画2の記録は、学会年報に掲載されます。

2019年3月3日

大学評価学会第16回全国大会「教育と研究の現場から考える大学のグランドデザイン—「もう一つの『大学評価』宣言」に立ち戻って—

<午前>自由研究報告 3会場13件

ポスターセッション 10件（掲示は常時）

<午後> 課題研究報告2会場（教職協働、発達保障）

第16回会員総会および総括討論

※自由研究発表、ポスター発表の一覧および課題研究の報告は、学会年報に掲載されます。

子連れ参加支援企画を行いました！

3月2日午後の公開企画では、「研究したい」「参加したい」と考える方により広く参加していただけの学会のあり方を検討するため、神戸大学の川地会員を中心に、子連れ参加支援として次のような取組が行われました。

公開企画が行われている会場の近くに「子育て

支援室」（和室・お湯が沸かせる）を設置し、発達科学部の学生2名が支援者として待機していました。公開企画のチラシに「子連れ参加可能」「保育ではない」「無料」「予約不要だが事前にお子さんの人数や年齢を連絡してもらえると助かる」「急に来られなくなっても構わない」旨を記載し

とおきました。また子育て支援室と公開企画2の会場をSkypeでつなぎ、支援室に子どもさんの様子を見に行った保護者の方も、会場での報告や議論を聞けるようにしました。

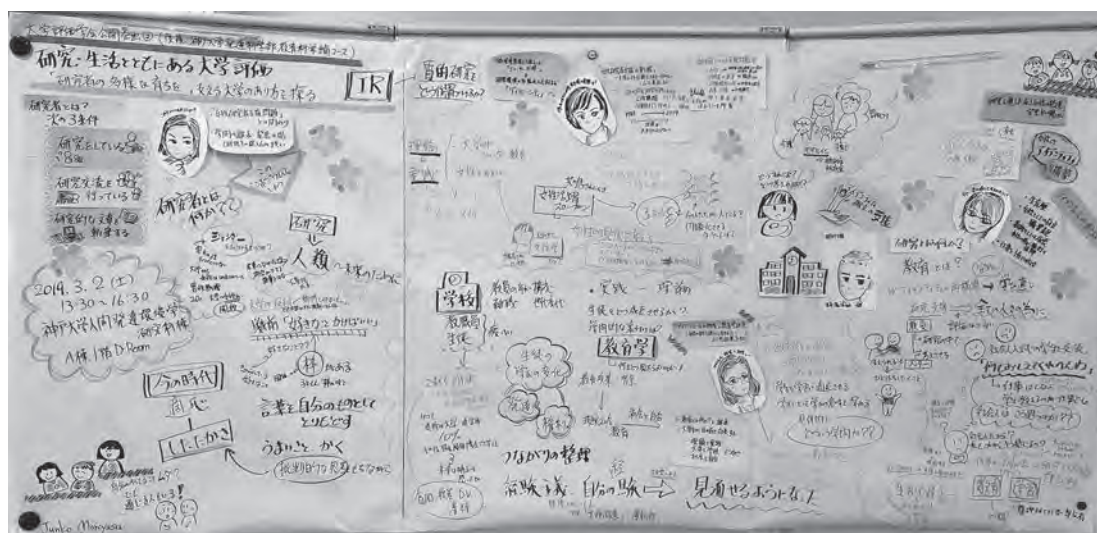
公開企画2の会場では、質疑の模様をグラフィックレコーディングで記録する（写真参照）という初めての試みも行われました。お子さんを連れていけると、議論に集中しにくくなるので、こういうものがあると便利であろうと思ってのことだったのですが、子どものことを抜きにしても、こういう記録があると良いものだなあ…と実際に目に見て思いました。

当日は、1歳と7歳の二人のお子さんを連れて参加された方がありました。下のお子さんが小さいこともあって、親御さんは子育て支援室で議論を

見ることができて良かったようです。また上のお子さんは大学生のおにいさんおねえさんと遊べて楽しかったようで、学校の日記に当日のことを書いていたそうです。こちらでもおもちゃを用意してあったのですが、お子さん自身が持ってきたおもちゃもあり、楽しく過ごせたようです。他方で学生の感想によると、今回は子どもさんの人数が少なかったのが良かったけれども、（学生の専門分野の関係上）乳児が大勢になると不安もあるということでした。

本学会は小さな学会ですが、発達保障を掲げる学会として、お子さんのいる人も一緒に参加できる方法が今後も模索されると嬉しいと思います。

（文責：西垣順子）



大学評価学会 第16回年次総会

2019年3月3日（日）15:45～神戸大学（B108 教室）

大会実行委員長挨拶（ 朴木委員長 ）

1. 議長選出（理事：小山、会員：中田）
2. 第7期顧問の了解 池内了・植田健男・碓井敏正・蔵原清人・重本直利・広渡清吾・細井克彦
朴木佳緒留・三輪定宣・山本健慈の各氏（計10名）
3. 2018会計年度活動総括（案）について
〈学会年報〉 第14号の発刊（2019年1月）／第15号の編集
〈シリーズ本〉 シリーズ本第8巻（蔵原清人著『大学改革と大学評価』）の発刊（2018年10月）
〈研究会活動〉

- ・第54回研究会 2018年7月22日（龍谷大学）
 - 1) 深野政之(大阪府立大)「大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築」
 - 2) 近藤真理子(太成学院大)「通信制高校での学びの機会の現状と大学での『リメディアル』の課題」
 - 3) 岡山 茂(早稲田大)「マクロン政権下の教育改革」
- ・第55回研究会 2018年9月15日（早稲田大学）
 - 1) 中田 晃(公立大学協会)「新たな認証評価機関の評価システムについて」
 - 2) 細川 孝(龍谷大)「学生の学習権と『大学の自治』」
 - 3) 渡部昭男(神戸大)「国際人権規約と教育無償化の理念」／西川 治(神奈川総合法律事務所)「奨学金破産」／戸塚悦朗(元龍谷大)「奨学金破産と漸進的無償化」
- ・第56回研究会 2018年12月8日（愛知工業大学）
 - 1) 津田道明(元日本福祉大)「信州における日本福祉大の高大連携・社会連携と『評価』の問題」
 - 2) 光本 滋(北海道大)「大学評価と研究・教育組織」
 - 3) 蔵原清人(工学院大名誉教授)「『大学改革と大学評価』をどう進めるか」

〈委員会等の活動〉

- ・「教職協働」委員会の活動実績を基盤とした科研費（C）が新規採択された（代表：深野／2018-20）。今年度は台湾の大学等を訪問調査した。来年度は韓国の大学を訪問調査する予定。
- ・「青年の発達保障」委員会（2016.5.発足／世話人：西垣・川口）について、MLを通じて情報交換。科研費(C)の採択（代表・西垣／2017-19）により共同研究を継続中。

〈学会通信〉 年2回発行：第46号（2018年6月）、第47号（2019年1月）

〈理事会〉第VII期

- ・第1回理事会 2018年3月4日（別府大学）
- ・第2回理事会 2017年9月15日（早稲田大学）
- ・第3回理事会 2018年12月8日（愛知工業大学）

〈会員現況〉

会員数： 173 [内訳 会員：166 協力会員：7（団体会員1を含む）]

〈その他〉

- ・ 教育関連学会連絡協議会第6回総会（2018.3.17東京大学）へ参加（蔵原顧問）
 - ・ 正副代表理事名による「『無償教育の漸進的導入』原則に反する現政権による『高等教育無償化』策に関する声明」の公表（2018年10月）
 - ・ 徳島県つるぎ町への訪問調査（井上副代表理事・渡部事務局長・細川事務局次長・永井幹事・三島会員、2018年11月3-4日）
 - ・ 日本学術会議協力学術研究団体に依頼のあった大学評価・学位授与機構の「機関別認証評価委員会専門委員」への候補者推薦（2019年1月）
 - 姉崎洋一氏（北海道大学名誉教授） 植田健男氏（名古屋大学大学院）
 - 紀 葉子氏（東洋大学） 谷川弘治氏（西南女学院大学） 中嶋哲彦氏（名古屋大学）
4. 2018会計年度決算（案）および監査報告 【別紙】
 5. 2019会計年度活動方針（案）について 【別紙】
 6. 2019会計年度予算（案）について 【別紙】
 7. 学会規約改正（案）について 【別紙】
 8. 第17回全国大会について 桜美林大学 2020年3月7日（土）・8日（日）（委員長・岡山共同代表）を予定
 9. その他

総会参考資料

2018年度決算（2018年2月21日～2019年2月20日）

【一般会計】

	2018年度予算	2018年度決算	内容
前期繰越金	831,323	831,323	
会費	810,000	811,000	過年度会費を含む
2018年度会費	690,000		
過年度会費	120,000		
年報販売売上	100,000	0	
雑収入	1,000	4,000	予稿集他
<収入合計>	1,742,323	1,646,323	
全国大会（第15回）	85,000	81,118	
開催補助（特別会計）	10,000	10,000	
予稿集印刷	50,000	47,744	
大会案内印刷・送付費	25,000	23,374	
年報（第12号）	425,000	374,616	
編集・印刷費	400,000	372,816	
送付費（封筒等含む）	25,000	1,800	執筆者分（10人）
学会通信（年2回）	120,000	88,546	
印刷費	70,000	52,164	
送付費（封筒等含む）	50,000	36,382	年報同封を含む
研究例会（年2回）	25,000	2,995	
会場費	20,000	0	
湯茶等	5,000	2,995	
理事会会議費	130,000	103,000	
事務費・事務用品費	60,000	50,273	
支払手数料	22,000	13,714	郵便振替手数料他
委託費	80,000	60,000	会費管理ほか委託
会費	10,000	10,000	教育関連学会連絡協議会
予備費	100,000	0	
<支出合計>	1,057,000	784,262	
<次期繰越金>	685,323	862,061	

注)

1. 全国大会・総会の開催日の関係で、2019年2月20日締めで決算を行った。
2. 年報の編集・印刷費には、音声起稿の費用（27,216円）を含む。
3. 事務費・事務用品費には、通信費（6,347円）を含む。

【全国大会 特別会計】

	2018年度予算	2018年度決算
前期大会繰越金	148,478	148,478
全国大会（第15回大会）	150,000	169,939
開催補助（一般会計から）	10,000	10,000
参加費	90,000	99,000
雑収入	50,000	60,939
<収入合計>	298,478	318,417
会場費	0	0
講師等謝金・旅費	85,000	85,000
アルバイト代	30,000	30,000
諸雑費	10,000	7,579
予備費	20,000	0
<支出合計>	145,000	122,579
<次期大会・繰越金>	153,478	195,838

注) 雑収入の内訳は、分科会運営に係る費用（50,000円）と、懇親会参加費（118,000円）と開催費用（107,061円）の差額（10,939円）である。

【シリーズ本 特別会計】

	2018年度予算	2018年度決算
前期繰越金	185,727	185,727
シリーズ本売り上げ	156,000	91,500
第8号：学会売上	100,000	91,500
同：晃洋書房還元	56,000	0
雑収入	10,000	6,180
<収入合計>	341,727	283,407
第8号	310,000	323,478
編集・印刷費	300,000	320,760
送料	10,000	2,718
予備費	10,000	0
<支出合計>	320,000	323,478
<次期繰越金>	21,727	△ 40,071

注) 雑収入は、第8号以外の販売である。

【貸借対照表 (2019年2月20日現在)】

資産		負債	
現金	99,374	次期繰越金	1,017,828
郵便振替口座	918,454		
合計	1,017,828	合計	1,017,828

会計監査報告書


2019年2月26日


監査報告書

大学評価学会 御中

2018年度(2018年2月21日～2019年2月20日)大学評価学会の決算を本日監査いたしました。帳簿、証憑はすべて正確に処理されていることを認めます。
 なお、引き続き、学会費の徴収に格段の努力をいただきますようお願いいたします。

以上

会計監査人 角岡 賢一 

会計監査人 塚田 亮太 

2019年度予算（2019年2月21日～2020年2月29日）

【一般会計】

	2019年度予算	2018年度決算	2018年度予算
前期繰越金	862,061	831,323	831,323
会費	810,000	811,000	810,000
2019年度会費	690,000		690,000
過年度会費	120,000		120,000
年報販売上	100,000	0	100,000
雑収入	1,000	4,000	1,000
<収入合計>	1,773,061	1,646,323	1,742,323
全国大会（第16回大会）	100,000	81,118	85,000
開催補助（特別会計へ）	10,000	10,000	10,000
予稿集印刷	65,000	47,744	50,000
大会案内印刷・送付費(17大会)	25,000	23,374	25,000
年報（第15号）	425,000	374,616	425,000
編集・印刷費	400,000	372,816	400,000
送付費（封筒等含む）	25,000	1,800	25,000
学会通信（年2回）	120,000	88,546	120,000
印刷費	70,000	52,164	70,000
送付費（封筒等含む）	50,000	36,382	50,000
研究例会（年2回）	40,000	2,995	25,000
会場費他	35,000	0	20,000
湯茶等	5,000	2,995	5,000
理事会会議費	130,000	103,000	130,000
事務費・事務用品費	60,000	50,273	60,000
支払手数料	22,000	13,714	22,000
委託費	80,000	60,000	80,000
会費（教育関連学会連絡協議会）	10,000	10,000	10,000
予備費	100,000	0	100,000
<支出合計>	1,087,000	784,262	1,057,000
<次期繰越金>	686,061	862,061	685,323

注)

1. 2019年2月20日締めで2018年度決算を行ったため、2019年度予算は2019年2月21日から2020年2月29日までとしている。
2. 2019年度会費は、@6,000×100人、@3,000×30人で算出した。過年度会費は、@6,000×15人、@3,000×10人で算出した。2019年3月3日開催の総会時における会員数は173人（うち協力会員は7人）である。
3. 事務費・事務用品費には、学会ホームページのサーバー使用料などを含む。

【全国大会 特別会計】

	2019年度予算	2018年度決算	2018年度予算
前期大会繰越金	195,838	148,478	148,478
全国大会（第16回大会）	100,000	169,939	150,000
開催補助(一般会計から)	10,000	10,000	10,000
参加費	90,000	99,000	90,000
雑収入	0	60,939	50,000
<収入合計>	295,838	318,417	298,478
会場費	30,000	0	0
講師等謝金・旅費	0	85,000	85,000
アルバイト代	0	30,000	30,000
諸雑費	10,000	7,579	10,000
予備費	20,000	0	20,000
<支出合計>	60,000	122,579	145,000
<次期大会・繰越金>	235,838	195,838	153,478

注)

1. 大会参加費は、会員@1,500×30人、院生等@1,000×15人、会員外@3,000×10人で算出した。
2. 3月2日に開催する情報交換会については、余剰が生じた場合には雑収入で計上し、不足については予備費で対応する（いずれも一般会計にて対応する）。

【シリーズ本 特別会計】

	2019年度予算	2018年度決算	2018年度予算
前期繰越金	△ 40,071	185,727	185,727
シリーズ本売り上げ	210,000	91,500	156,000
第8号：学会売上	45,000	91,500	100,000
同：晃陽書房還元	120,000	0	56,000
第9号：学会売上	45,000		
同：晃陽書房還元	0		
雑収入	10,000	6,180	10,000
<収入合計>	179,929	283,407	341,727
シリーズ本・継続企画	310,000	323,478	310,000
編集・印刷費	300,000	320,760	300,000
送料	10,000	2,718	10,000
予備費	10,000	0	10,000
<支出合計>	320,000	323,478	320,000
<次期繰越金>	△ 140,071	△ 40,071	21,727

注)

1. 第8号の学会売上は、30部（頒価@1,500）を見込んだ。
2. 第8号の晃陽書房からの還元は、150部（@2,000×150×40%）を見込んだ。
3. 第8号の学会売上は、30部（頒価@1,500）を見込んだ。
4. 雑収入は、第7号までの販売を見込んだ。

大学評価学会規約の改正について

2019年3月3日開催の第16回総会において、本学会規約の一部改正が承認されました。今回の改正は理事会の成立要件を明記するとともに、通信による理事会の実施を可能にすることを目的としています。改正の目的・理由や内容については以下のとおりです。

(改正の目的・理由)

現行の規約では、理事会の成立要件が明記されていないほか、「議決は過半数」とあるが、①出席理事（委任出席を含む）の過半数か、②全理事の過半数か、が判然としない。また、規約に規定がないまま「通信による理事会」が開催されており、各理事の意思表示がないまま会務が運営されてきた。理事会が主導する会務運営への転換を図らざるをえない中、理事会開催回数・開催時間は限られている。そのため、通信による理事会への報告や議決が行えるよう規約を改正し、迅速な議決が必要な事項に対応できるようにするとともに、対面による理事会の機会・時間の有効な活用を図りたい。

(現行)

第12条 理事は総会において会員の中から選出する。理事は理事会を構成して会務を処理する。
理事会の議決は過半数とする。 幹事は理事会において会員の中から選出する。幹事は学会実務における専門的機能を担当する。

(改正案)

第12条 理事は総会において会員の中から選出する。理事は理事会を構成して会務を処理する。
2 理事会は、理事の過半数の出席により成立する。
3 理事会の議決は、委任による出席を含め、出席の理事の過半数の同意を要する。
4 理事会は、通信の方法により実施することができる。その場合の議決は、理事の全員が書面または電磁的記録による意思表示をし、過半数の同意を要する。
5 通信の方法により理事会を実施する場合、理事は理事会に報告すべき事項を合わせて通知することができる。
6 幹事は理事会において会員の中から選出する。幹事は学会実務における専門的機能を担当する。

《付則》

本規約は、2019年3月3日に一部改正し施行する（第12条改正）。

理事会報告

大学評価学会第Ⅶ期第4回理事会

日時：2019年3月2日（土）12時～13時

場所：神戸大学・A棟4階427教室

出席：岡山・日永・井上・西垣・光本・安東・石渡・川口・菊池・小池・小山・深野・藤原・水谷・望月・米津・渡部 =17名

委任：片山・松下・村上

（理事総数20人、出席17人、委任3人）

幹事：5人出席

前回議事録案の確認

【報告事項】

1. 学会年報15号について
2. 大学改革支援・学位授与機構からの「国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別評価委員会専門委員の候補者の推薦について（依頼）」（11月30日付）への対応について

【審議事項】

1. 第16回総会の議案および運営について
 - ・ 資料をもとに総会の議案、総会の議長案及び各報告等の担当者を確認
2. 会員の異動について
 - ・ 入・退会、除籍、会員種別変更を承認
3. 第16回大会の記録について
 - ・ ニュースレター掲載分、年報掲載分の大会記録執筆予定者を確認
4. 第17回全国大会（桜美林大学 2020年3月予定）について
 - ・ 第17回大会を桜美林大学で開催することを再確認
 - ・ 日程候補を3月7・8日、会場は同大学町田キャンパスを第1候補とすることを確認
5. 学会通信の作成について（再掲 議案1・3で審議）
6. その他
 - ・ 将来の学会年報の電子化の可能性を検討する際の選択肢として、EBSCOデータベースへの概要について説明

以上

大学評価学会年報『現代社会と大学評価』第16号への投稿募集

学会年報『現代社会と大学評価』第15号(2020年7月刊行予定)に掲載される学術論文、資料、研究ノート(以上、査読審査対象)、実践報告、レビュー、動向(以上、閲読審査対象)への投稿を募集しています。2019年7月末日までに学会ウェブサイトに掲載されている「年報『現代社会と大学評価』執筆要領」をご確認の上、ふるって投稿をお願いします。

投稿ご希望の会員は、上記執筆要領の「11.原稿送付先・問い合わせ先」宛、郵送・Fax・電子メールのいずれかの方法で申し込みをお願いします。書式は問いません。

上記、査読審査対象となる原稿の提出期日は9月末日とします。また、その他の原稿については、11月末日までに提出されたものを第16号に掲載対象とします。その後、所定の審査を行ない、2020年2月末日までには掲載の可否をお知らせします。

(文責：日永龍彦 年報編集委員長)

第6回「田中昌人記念学会賞」に係る対象業績等の推薦について

第VII期第1回通信理事会(2017.5.23.)の協議に基づき、以下の要領で対象業績等の推薦を受け付けます。

締め切り：2019年12月23日(月)正午まで

対 象：1)本学会誌(～第15号)および本学会シリーズ本(～第8巻)の掲載原稿

2)学会以外の出版物およびそこでの掲載原稿*

(*の場合は会員2名以上の推薦者による推薦)

書 式：推薦者氏名・所属、推薦年月日、対象業績及び氏名、推薦理由**

(**学会HP「田中昌人記念学会賞」に格納されている第1～5回受賞の情報を参照のこと)

その他：「田中昌人記念学会賞運営規程」は学会HP「田中昌人記念学会賞」をご参照ください。学会賞審査のおおよその日程は、2020年1月＝選考委員会による選考、同2月＝選考結果の理事会への報告と理事会による審議、同3月7日(土)第17回大会@桜美林大学で開催される総会時に公表の予定。

送付先：大学評価学会共同事務局

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学 細川孝 研究室 気付

E-mail:hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp 電話:075-645-8634

大学評価学会第57回研究会について

大学評価学会第57回研究会は、第17回大会実行委員会が大会企画と関連したテーマで開催を準備しています。詳細は大学評価学会年報発送時に同封の案内もしくは学会ウェブサイトでご確認ください。

日 程：2019年9月7日（土） 14時から17時（予定）

場 所：早稲田大学 早稲田キャンパス（〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1）

内 容：

- ・ 岡山 茂「19世紀末のオックスフォード大学とケンブリッジ大学における教員採用と『イギリス的寛容』の問題—ステファヌ・マラルメ『禁域』を読む」（仮）
- ・ その他、大会企画と関連するもの（予定）

交通アクセス

J R山手線・西武新宿線高田馬場駅から 徒歩20分あるいは都バス 学02（学バス）

東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩5分

東京メトロ 副都心線 西早稲田駅から徒歩17分

* 同会場にて、10時より第Ⅶ期第5回理事会、学会関連委員会を開催します。また、夕方は情報交換会を予定しています。ふるってご参加ください。

2019年度、秋の研究集会（10月19日開催）のお知らせ

本年度は、『にし阿波の傾斜農耕システム』で“世界農業遺産”に認定され、また「二重卯建（うだつ）の町」など多くの見所満載の〈つるぎ町〉で研究集会を開催いたします。

また、つるぎ町の方々と連携した「地域集会」の試みも企画しています。

現地調査と題した「町の歴史・文化・産業」を探索するエクスカージョン、名物「半田そうめん」の体験（検討中）など多彩な催しの準備もすすめています。

多くの会員の参加をお待ちしています。

【日程】 ・10月18日（金）前泊者向けのプレ企画（予定）

・10月19日（土）大学評価学会 秋の研究集会

【会場】 徳島県美馬郡つるぎ町貞光 周辺

■ 詳細については、企画が決まり次第、本学会ホームページにて順次お知らせいたします。

訃報

大学評価学会発起人のお一人であられた海部宣男先生（元国立天文台長）が4月13日、ご病気のため亡くなりました。海部宣男先生は、発足以来2015年まで学会理事として、そのうち、2010年から2015までは学会代表理事として会務運営にご尽力くださいました。また、2015年3月から3年間は本学会顧問として後進の指導にあたってくださいました。

さらに、会務運営にとどまらず、2004年3月の本学会設立大会シンポジウムで「学術と大学評価 ー達成度評価・数値目標の誤りとピア・レビューー」と題するご講演をされた他、大会・研究会等で学術研究の評価についてたびたびご報告いただくなど、大学評価研究にも多大なご貢献をしてくくださいました。

本学会への多大な功績を讃えつつ、ここに大学評価学会を代表して哀悼の意を表します。

2019年4月17日 共同代表理事 岡山茂、日永龍彦

追悼文

海部先生は設立総会に、東京からきていただき、評価の重要性を強調されました。私も含め学会立ち上げに一抹の不安を感じている参加者を励ましていただきました。その際、天文学における世界的な評価の取り組みには感心しました。天文学者としての業績のすごさとともに、先生の学問の社会性の高さに驚きもしました。私が学会事務局長の時に、ある出来事で落ち込んでいる私に励ましの言葉をかけていただいたことを思い起こしております。厳しさと優しさをそなえた物理学者・天文学者として尊敬の念をいだきつづけてきました。お亡くなりになられたこと、残念です。もう一度、海部先生が大学評価学会に期待されていたことを振り返りたいと思います。

2019年4月17日 大学評価学会顧問 重本直利

大学評価学会第17回大会について（第一次案内）

テーマ：大学人像の再構築（仮）

日 程：2020年3月7日（土）～8日（日）

場 所：桜美林大学 町田キャンパス（〒194-0294 東京都町田市常盤町3758）

交通アクセス JR横浜線 淵野辺駅よりスクールバス・神奈川中央交通バス

JR横浜線・小田急線 町田駅より神奈川中央交通バス

概 要：自由研究発表、ポスター発表、総会、シンポジウム、課題研究発表 など

大会実行委員会

委員長 岡山 茂（早稲田大学）

委 員 石渡尊子（桜美林大学・大会事務局長）

菊池芳明（横浜市立大学）・小池由美子（大東文化大学）・小山由美（日本大学）・

日永龍彦（山梨大学）

自由研究発表（口頭発表）およびポスター発表の申し込みについて

大会期間中、会員の「自由研究発表」・「ポスターセッション」を開催します。会員の皆様にはふるってお申し込み下さい。申し込み方法の詳細は、大学評価学会年報発送時に同封の申し込み案内もしくは学会ウェブサイトでご確認ください。第17回大会情報を随時更新してまいります。

なお、入会手続きをすれば発表が可能です。未会員の方で発表希望の方は、下記学会事務局宛ご連絡ください。

【申し込み受付期間】 2019年10月1日（火）から11月30日（土）まで

* 従来の大会より発表申し込み受付が早くなっていますのでご注意ください。

【想定されるテーマ】 大学・学術の果たすべき役割、大学評価や法人経営のあり方、評価書の読み方・読み解き、大学評価・大学教育政策、公立大学問題、センター・附属施設の機能、教職協働の取り組み、FDや学生参画、授業づくりの実践、アクティブ・ラーニング、高大連携・高大接続の現状と課題、学生・青年の発達保障・移行支援、就活・キャリア教育、無償教育の漸進的導入、ジェンダー問題・男女共同参画、多様性と包摂 など

【要旨集原稿締め切り】 2020年1月31日（金）の予定

申込先 大学評価学会共同事務局 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学

メール hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp または FAX 075(645)8634（細川研究室）

【大学評価学会の日誌】

2019年

2月26日（火）会計監査（龍谷大学）

3月2日（土）全国大会「プレ企画」、第Ⅶ期第4回理事会、懇親会（神戸大学発達科学部）

3月3日（日）第16回全国大会、会員総会（ 〃 ）

<予定>

9月7日（土）第57回研究会（早稲田大学・早稲田キャンパス）

第Ⅶ期第5回理事会（ 〃 ）



学会年会費の請求について

2019年度（2019年3月1日～2020年2月29日）の学会年会費の請求書を同封させていただいております。過年度分が未納の方につきましては、2019年度分とあわせてお支払いいただきますようお願いいたします。同封の郵便振替用紙を使ってお支払いください。

なお、年会費は6千円（現職教員以外の者〔院生・学生を含む〕は3千円）です。

大学評価学会事務局 会計担当 細川孝

612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学

e-mail : hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

電話・Fax : 075 (645) 8634<ダイヤルイン>

編集・発行：大学評価学会

<学会事務局> 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学
発達科学部 渡部昭男研究室
Tel/Fax : 078(803)7726 (渡部)
e-mail: akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp

<事務連絡先> 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学
経営学部 細川孝研究室
Tel/Fax : 075(645)8634 (細川)
e-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp
URL : <http://www.unive.jp/>

<会費納入先> 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会